

下矢部西部地区社会福祉協議会(熊本県上益城郡山都町)

(構成：地区社協役員 福祉協力員など)

《活動主体の概要》

総人口： 人
高齢者数： 人
世帯数： 世帯
産業構造：
地理的構造：

活動のきっかけ

熊本県山都町下矢部西部地区は、九州中央部阿蘇山の南側の山間部にあり、過疎化、高齢化が進んでいる地域である。

この地域では、ひとり暮らしになった高齢者（特に男性）は、不自由さや寂しさから地区外の息子や娘のところを寄せ、そして、誰も知らない、つながりもない高齢者施設に入所するということが見られる。

施設に入るのではなく、この地で支え合って、最後まで暮らせるようにしたいというのが下矢部西部地区社会福祉協議会の活動の原点であり、この地域で安心して暮らしていくためには、地域住民に同士による支え合いのための見守りが必要であった。

また、山間部であるため、買い物や移動が困難であることや、過去に災害時の避難対応が円滑にいなかったという課題があり、このことにも併せて取り組む必要があった。

活動方法

県や国の補助金を活用し、廃校となった小学校を改修し、地域住民の交流、健康づくり、災害時の宿泊体験に取り組める地域活動の拠点とした。

また、地域の4箇所の公民館でコミュニティカフェ（茶話会）の実施し、地域住民の交流と見守りの場所としている。そこで

は、コミュニティカフェを行いながら、「つぶやき拾い」（アンケート調査）を実施し、地域のニーズや課題の情報収集、移動販売車による買い物支援、介護予防体操や口腔ケアなどの健康づくりも併せて実施している。

さらに、なかなか地域外で出る機会がない高齢者のために、バスで地域外への外出（散策や温泉など）する取り組みや、医療機関の協力による健康づくり講演会を実施するなど、地域住民がこの地域でいつまでも暮らせるよう取り組んでいる。

工夫点

コミュニティカフェと同時に移動販売車による買い物支援や介護予防の取り組みなどを行うことで、多くの地域住民の参加を得ている。自然とおしゃべりの場とすることで、同時に見守りや安否確認の場としている。

さらに地域住民のニーズを拾う「つぶやき拾い」を行うことで、次の活動へつなげている。

災害時の宿泊体験では、必ず一人暮らしの高齢者に参加してもらうことで、その人が必要とする支援への気付きや、その人と地域とのつながりの構築を図っている。

福祉協力員として、地域の方に協力してもらっている。福祉協力員を増やすことで活動を広げてきた。

成果

コミュニティカフェでは、地区の多くの住民が参加するようになり、孤立化の防止、見守り、安否確認につながっている。

また、口腔ケアや介護予防、移動販売車、災害時の宿泊体験の取組みは、この地域での生活を続けていくための生活の質の維持につながっている。

課題

今後も取組を継続していくためには、後継者となる人材と事業費の確保が課題としてある。

人口減少、高齢化が進んでいるため、地区外に出て行った地区出身者を呼び戻すような取組が必要。

医療機関もないので、救急車が来るまでの間に応急的な対応ができるような仕組みが必要とされるなど地域の課題は多い。

代表者、事業者等の声

身近に地域住民が集まれる場所があり、本音で語り合える人間関係があれば、お互いにちょっとしたことに気づくことができ、それが支え合いにつながる。

最初は自立支援、介護支援のための活動だったが、見守り等の活動を通じて、その内容は生活支援への取組へと変わった。

近隣の地域外に移り住んでいても地区の区役等を担っている人は多く、地区の活動に協力してくれる人は多いため、地区に住んで生活をしていけるような地区独自の産業があれば居住者も増えるのではないかと。